

# 中級クラス修了認定基準

1. 積雪観察（ピットチェック）を正しく実施でき、観察結果を記録できる。
  - 観察用のピットをすばやくかつ正しく作成できる。
  - 積雪の温度を計測し、積雪内部の温度勾配について説明できる。
  - 自分の判断のみで層を決定できる。
  - ルーペを用いた観察により、積雪の雪質、粒径を観察でき、記録できる。
  - 球形化、再結晶化の雪の変態を理解し、実際のデータに対して温度勾配との関連で説明できる。
  - 弱層テストの結果と積雪構造とを関連づけ、弱層を推定できる。
  - ピットデータを正しく記録し、グラフ化でき、弱層について考察できる。
  - 積雪構造を気象データと関連づけ説明できる。
  
2. 積雪不安定性を評価できる。
  - CT を正しくかつすばやく実施でき、弱層の雪質、粒径を含め、正しく記録できる。
  - ECT を実施、記録できる。
  - RBT を理解し、説明できる。
  - 評価方法の重要度と信頼度を理解し、説明できる。
  - 積雪不安定性評価の結果に基づき、誘発感度、伝播性と、雪崩サイズとを関連付け、雪崩ハザードの基本的な評価ができる。
  
3. 複数埋没者に対するコンパニオンレスキューの基本的方法を理解し、実施できる。
  - 10 m 以上離れた 2 人の埋没を 1 人で 10 分以内にピンポイントングできる。
  - 雪崩トランシーバーの電波干渉について理解し、干渉を低減させる方法を実施できる。
  - メンタルマップの概念について理解し、2 人埋没のサーチにおいてメンタルマップを構成、更新できる。
  - 逐次マーキングによる複数埋没者のサーチを実施できる。
  - 雪崩トランシーバーの信号のオーバーラップ現象について理解し、バックアップとしての搜索方法を 1 つ以上実施できる。
  - スノーコンベアベルトシャベリングにおいて、リーダーとしてシャベリングを指示できる。
  - 雪崩事故における 1 次救急処置の基本を実施できる。
  
4. 山行パーティーのリーダーとしての雪崩リスクマネジメントの基本を実施できる。
  - 山行前の気象チェックによる雪崩ハザード予測を実施できる。
  - 雪崩ハザード評価に基づく、行動計画の立案および雪山での意思決定を実施できる。
  - 不確定要素を意識し、不確定要素を埋めるための情報収集を実施できる。
  - 山行におけるヒューマンエラーを理解し、対策を講じ、対応することができる。
  - 実際の山行において実施されたリスクマネジメントの問題点を抽出し、今後の山行における対策を立案できる。

5. コンパニオンレスキューのリーダーとして、サーチおよびレスキューを統率できる。

- レスキューにおける優先事項、目標を理解し、レスキューチームの安全を確保し、迅速にサーチおよびレスキューをリーダーとして統率し実施できる。
- 事故状況に合わせて、チーム内でのリソースの配分、時間管理、救助目標の設定を柔軟にできる。
- 組織レスキューへの連絡、またのその指示ができる。
- 一次救命処置を SABCDE の順に実施でき、要救助者を安定した状態に保ち、組織レスキューに引き継ぐことができる。
- 雪崩トランシーバー不携帯の場合の対応として、スラロームプロービングによるコースプロービングを実施できる。